



カワウ追い出し大作戦

津市長 前葉 泰幸

一身田志登茂団地に異変が生じたのは平成26年秋のことでした。団地近くの養鰻池が埋め立てられメガソーラーの設置工事が始まると、池を生活の場としていたカワウやサギ、水鳥などの野鳥が団地南側の用水路脇の雑木林に移動してきました。

その数、数百羽。昼夜にわたる大きな鳴き声、漂う悪臭、糞の落下に羽根の飛散。外に洗濯物も干せず、夏でも窓を開けられない事態にたまりかね、近隣住民は地元自治会を通じて津市に営巣木伐採などの協力を求めます。しかしながらカワウのねぐらとなっている雑木林そのものは私有地であることから、市が手をつけることはできません。わずかに市が管理する用水路に覆いかぶさっている部分を剪定するにとどまっていた。

おりしも、翌27年秋から37の地域で地域懇談会が始まります。11月23日、一身田地区の第1回地域懇談会が開催されると、カワウ問題は出席者の大きな関心事項となりました。民有地の樹木を勝手に伐採することはできず、保護すべき野鳥であるカワウを捕獲することもできない。八方ふさがりの感はあったものの、現に住民の方々は困り果てています。私としては「とにかく、一緒に対策を考えましょう。」と答えるのが精一杯でした。

早速関係各課を招集して検討を開始しましたが、この厄介な出来事を前に、これといった有効な打開策はなかなか出てきません。担当する部局も定まらないまま半年が過ぎ、平成28年5月、第2回一身田地区地域懇談会の日を迎えました。

「獣害対策に1億円の予算が計上されているが、志登茂団地で被害を受けているのは白菜やキャベツではなく人間だ。どうかそこに目を向けてほしい。」悲惨な住環境を改善するためには自治会による費用負担も辞さないという、自治会連合会長の悲鳴にも似た発言を受け、私は腹を決めました。

「市民の生活環境を守るのは市の務めです。本日より津市環境部が腰を据えて皆さまとともに知恵を絞ります。」

そうと決まった後の環境保全課の動きは迅速かつ的確でした。専門家の助言をもとにゴム長履きで用水路を渡って調査道作りに取り掛かります。あらかじめ地権者の同意を取り付けたうえで繁茂した竹を手作業で刈り取り、自分たちの目で観察を重ねます。立案したのは、人間による威嚇を徐々に強めていく作戦でした。

11月、建設部相川作業所の職員8人も加わった12人体制で、9回に及ぶカワウ追い払い作業に着手。草刈機やチェーンソーでわざと大きな音を出して威嚇します。繁茂する竹や雑草を伐採し、カワウが「住みにくい」ねぐらへと段階的に環境を変えていきました。作戦開始前216羽いたカワウは次第に少なくなり、三重大学のご協力のもとドローンを飛ばして威嚇する、とっておきの策を実行に移す頃には、とうとう姿を見せなくなっていました。

一身田地区のカワウ対策は、どこまでが市役所の責務で、どこまで市の権限が及ぶのかが曖昧な、判断の難しい特別な事案だったと言えます。それでも、他に持っていき場のない団地住民の悲痛な訴えを前にして、津市は、公益性の有無を唯一の判断基準に、できない理屈を並べざるやめました。とはいうものの、制約だらけの状況のもと、使えるものは職員自身の頭と体の他はありません。覚悟を決めた彼らは、自ら雑木林へと分け入ったのです。

市民の皆さまの困りごとを解決する場合は、地域懇談会だけではありません。市役所には常に市民生活のすべてに関わる相談が寄せられています。ありとあらゆる案件の中には、対応する仕組みも制度も予算もないものもあることでしょう。それでも、公益性がある限り、市民の困りごとの最後の拠り所として、市役所が逃げるわけにはまいりません。

一身田の雑木林にもうカワウたちが姿を現すことはないのでしょうか。それは誰もわかりません。もう一度やってきたとしても、もちろん、市役所はとことん皆さまとともに考え抜き、汗を流すことをお約束します。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索

市長の活動日記から



✓南長野イルミネーション2016点灯式
(南長野生活改善センター)…12月3日
南長野十二志会製作の冬の風物詩。14回目には新・津市誕生10周年と映画「シン・ゴジラ」をかけた「ツ・シンゴジラ」が出現しました。



✓津市消防団年末特別警戒
巡視(市内各所)…12月29日
各方面の消防団を巡視。火器使用の増加する年末、深夜まで警戒にあたり地域の安全確保にご貢献下さる団員に深く感謝し、激励しました。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索